



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 8 月 10 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	瀧山 拓哉

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
笹ヶ峰・新潟県	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
笹ヶ峰実習(無雪期)	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
平成 29 年 7 月 18 日 ~ 平成 29 年 7 月 21 日 (4 日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
静岡大学 杉山茂准教授	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
新潟県妙高高原にある京都大学笹ヶ峰ヒュッテで行われた笹ヶ峰実習に参加した。今回の実習では火打山登山やロープワーク講習、ビバーク体験を通してフィールドワークの基礎となるサバイバル技術を学ぶのが目的だった。	
日程 18日 ヒュッテに到着, 周辺散策 19日 涸沢ヘトレッキング, トクサ沢散策 20日 火打山登山 21日 ロープワーク講習, ビバーク講習, 片付け	
4 回目のヒュッテであり, 2 回目の火打山登頂であった。PWS の無雪期笹ヶ峰実習も 3 回目の参加ということもあり, プログラムのうちの多くは既に経験したものがほとんどであった。そのため, 参加前は「もしかすると, 今回の実習に新鮮味はないかもしれない」とも考えていた。しかし, 実習では様々な経験を積むことができた。	
最も大きな違いは季節であった。以前の 3 回はいずれも秋に参加した。同じ無雪期ではあったが, 風景は全く異なっていた。前回訪れた際, 雪は溶けていたが今回は残雪もあった。以下の写真は昨年度と今年度, 火打山に登山した際の写真である。	
	
2016 年 10 月に訪れた際, 撮影した写真(昨年度レポートより)	今回撮影した写真
天気も前回より良かったこともあり, 様々な景色を楽しむことができた。今回の実習では前回のよう に, ニホンザルやタヌキといった野生動物に会うことはできなかったが, 前回とは違った笹ヶ峰の魅力を	

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

感じることができた。今回の実習を通じてロープワーク等のサバイバル技術を学ぶことができたのはもちろん、先入観なくものごとに挑む大切さも再確認することができた。



天狗の庭に火打山が映っていた



火打ち山山頂にて(撮影:滝澤玲子先生)

### 6. その他 (特記事項など)

実習中は杉山先生、松沢先生、幸島先生、滝澤先生には非常にお世話になりました。本実習はPWSの支援を得て行われました。この場をお借りして御礼申し上げます。